

連載

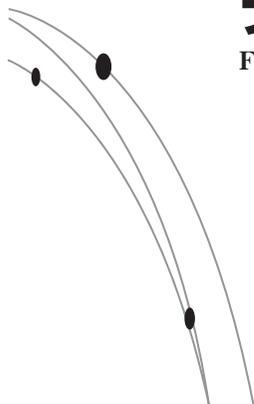
## フィールド・アイ

Field Eye

デンマークから——③

町北 朋洋

Tomohiro Machikita



### While my name gently weeps

雨に濡れながら住民登録のために訪れたフレデリクスベア市役所の前で、私の緊張は極限まで高まっていた。私が滞在の機会を得たデンマークでは、住民登録の意味が何よりも重い。コムーネと呼ばれる行政単位ごとに住民登録が受け付けられる。銀行口座の開設と管理はもちろん、納税や公共料金支払い、日常のオンライン支払い、かかりつけ医への連絡、図書館での貸借にまで、住民登録によって取得できる個人番号の入力が様々な場面で求められる<sup>1)</sup>。

生年月日からなる6桁と、個人毎に与えられる4桁を足した計10桁の番号だ。男性には奇数が与えられる。移民の受け入れによって、私と同じ6桁の番号を持つ人物がこれからどれくらい増えることだろう。入国翌日には、受入機関のコペンハーゲン・ビジネススクール（以下、CBS）に行き、秘書との面会、高名な陶磁器メーカーの工場を再利用した研究室への荷物の搬入が待っている。翌々日には歓迎朝食会、アパートへの入居、若い大家との再交渉が控えている。翌週には銀行口座開設、携帯電話の購入だ。デンマーク到着直後には住民登録を終えて番号を取得し、自分の頭からこの重たい懸念を一掃しておきたかった。

フレデリクスベア市役所の玄関に立った。雨が止まない。受付で整理券を取り、失策があっちはいけないと、念を入れて確認した必要書類一式を控えめに渡し、手続きが始まる。生年月日を記入した後、個人番号が付与された。かかりつけ医の住所を地図で確認し、あっけなく住民登録が済まされ、デンマーク社会の一部となった。頭の中にあった霧が晴れたのだ。

イエローカードと呼ばれる黄色と白色からなるプラスチック製のカードが2週間後に自宅に届くから、この証明書を代わりに使っていると、係官の言葉を最後まで聞かず、ハイハイと生返事を繰り返し、紙切れを奪い取り、ほんの数分で「無事に」手続きが終わったことに舞い上がり、市役所を離れた。実は私の姓が、Maachikita と、「aa」という母音が連続するオランダ南部の都市マーストリヒトのような表記で登録されていたことに気がつくのは、翌週、口座開設に訪れた銀行から証明書の誤りを指摘された後であった。

間違えられたままの名前で生活をする際、不便が生じるのは当たり前だろう。しかし、デンマークではそうではなかった。とりあえずの生活と仕事を起ち上げるためのすべてが、名前の正確な記入を求められることもなく、個人番号の入力のみで滞りなく終わってしまっていた。銀行をとほとば後にし、姓の訂正を行うべく市役所に戻り、ここで再び失策があっちは失格、退場だと肝に銘じ、担当者と大げさに微笑み合って手続きを終えた。

驚くべきことに、2週間後、イエローカードを1枚ずつ含む2通の封筒が同時に自宅アパートに郵送されていた。イエローカードが2枚。退場だ。1通は私が苦勞して手に入れた正しい姓、そしてもう1通は、間違えられたままの、あのマーストリヒトであった。イエローカードには私の名前と住所、かかりつけ医の氏名、住所と電話番号、私が市役所に出向いた翌日の日付、コムーネの名称が記載されていた。2通とも個人番号は同一であった。

### 聞き取りの開始——制度受容史について

6桁の生年月日と4桁の番号を組み合わせた10桁の個人番号の作成・管理に対し強い姿勢で反対を露わにする人は、このデンマーク社会にどのくらいいるのだろう。それまで各コムーネが個別に収集していた個人情報と番号を中央で1カ所に統合する作業が1968年に始められCPR numberと呼ばれる個人番号が長期滞在外国人を含む全居住者に付与され始めた。

個人番号の導入とその管理をどう評価するか、同僚に聞き取りを行った。更にさまざまな世代や外国籍研究者からも標本を抽出せねばと考えた。こんな時、CBSの多国籍軍団は便利だ。周囲の同僚のうちデンマーク人は3分の1程度だ。一癖、二癖もある連中が様々な理由で「ケベン・ハウ（商人の港）」と呼ば

れるこの街に漂着している。筆者の研究室の隣のキッチンには最新鋭の巨大なコーヒー・マシンが設置されていたので、絶え間なく人が集まるのも好都合だ。皆が昼食を持ち寄り、大テーブルを囲み、話し始める。

生まれたときからのことなので特に気にしたことがない。当時は大反対があったし今も反対があると思うが政府が高めてきた透明性への信頼が勝る。手厚い社会保障を受けられなくなると困る。ドイツではこうはいかない。スペインではフランコ将軍の独裁下で作られた個人番号制度を新政権もそのまま引き継いだ。このシステムは写真が無く不完全だ。移民が増え10桁の番号では足りなくなっている。プライバシーなど気にしないので好き勝手にどうぞ自分の情報を使ってくれ。逆に日本はどうしているの、(基礎年金番号があるのだが、と当方から説明)といった意見が無数に出てきた。要約しよう。細かい問題は残るが、個人番号は納税と社会保障を通じた所得分配を支える社会的基盤としても、日々の決済を支える基盤としても根付き、生活に埋め込まれていた。

#### Register-based research

この10桁の個人番号は「匿名処理」が施され、社会科学的研究・制度設計的議論の基盤となっている。個人を長期追跡し、かつ当該職場で誰が働いているか、そこで働く個人はこれまでどういった職場を転々としてきたか、個人番号に基づき、会社の採用履歴と個人の転職履歴を社会全体で結びつける「Linked (もしくは Matched) Employer-Employee Data」が政府と研究者によって開発されてきた<sup>2)</sup>。労働・公共経済学においては個人や家計の不均一性を前提とした仮説が次々に発表され、こうしたレジストリー・データが精確な仮説検証に用いられている。更にレジストリー・データは労働市場における企業・産業組織の役割をわれわれに再認識させると同時に、市場の摩擦を計測することの重要性も示唆する。

また各国固有の労働市場制度やスキルの分布が、生産物市場での比較優位をどの程度規定するかを明らかにするため、国際貿易研究においても(企業内)労働市場構造を組み込む必要が生じた。企業の国際化・高度化と組織内の「ヒト」の構成、つまり上司と部下が職場を転々とすることによる組織ダイナミクスを結びつける仮説も現れ、デンマークのレジストリー・データを用いて検証され始めた<sup>3)</sup>。更に地域研究、経済理

論、統計的推測が深く融合されれば、デンマーク労働市場の大部分を占める中小企業の参入・退出・成長メカニズムを探り、労働市場に日々発生している摩擦が企業成長にもたらす集計的な含意を得、今後の「フレキシキュリティ」の在り方を制度設計的に議論するといった野心的研究も可能となる。

在米研究者と在デンマーク研究者の間で始まった旺盛な共同研究により、各分野の先端的な実証研究の地理的重心が米国から欧州に急速に移りつつあり、デンマークを題材にした研究も数多く登場している<sup>4)</sup>。特筆すべきはCBSのステフェン・アナスン(Steffen Andersen)らで、彼らが打ち出してきた新機軸は、実験室実験、フィールド実験、自然実験に10桁の個人番号を接続するというシンプルだが極めて強力な発想だ。研究者は個人を処置群と統制群に割り振るだけでなく、2群に分けられた各個人の個人番号も入手していることから、実験参加者の実験前後の行動も長期追跡できる。

デンマークで貴重な一年を過ごした後、私は米国に移った。デンマークを去る際、2枚あるイエローカードのどちらかを返却すべきだったのだろう。いや、どちらでも構わない。私を他の人物から区別するものは、姓でもなく、親から与えられた名でもなく、私に与えられた贈り物、10桁の個人番号なのだから。

\*本連載の内容は筆者が所属する組織の見解を表すものではなく、記述中に残る誤りは筆者のみの責任に帰する。

- 1) 筆者は、フレデリクスベアでの半年間が日記形式でまとめられている加藤典洋著「小さな天体——全サバティカル日記」(新潮社、2011年)を大事な手引きとした。
- 2) 加藤隆夫(2012)【連載かいがい発】「キャリアの経済学」『労働調査』2012年10月号も参照されたい。
- 3) Andrey Stoyanov and Nikolay Zubanov (2012) Productivity Spillovers across Firms through Worker Mobility. *American Economic Journal: Applied Economics*, 4 (2): 168-98.
- 4) Kleven, H., et al (2011) Unwilling or Unable to Cheat? Evidence from a Tax Audit Experiment in Denmark, *Econometrica*, 79: 651-692. Chetty, R., et al (2011) Adjustment Costs, Firm Responses, and Micro vs. Macro Labor Supply Elasticities: Evidence from Danish Tax Records, *Quarterly Journal of Economics*, 126: 749-804.

まちきた・ともひろ 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員。最近の主な著作に、The Effect of Extended Unemployment Benefit on the Job Finding Hazards: A Quasi-Experiment in Japan, IZA Discussion Paper No. 7559, (小原美紀、佐々木勝と共著)。労働経済学専攻。